

令和8年度 熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科  
自己推薦型選抜 総合問題 出題意図

【全体の出題意図】

本試験は、総合管理学部のアドミッションポリシーに基づき、「社会の諸課題に対する興味」や「諸課題を解決していこうとする意欲と態度」, 「課題を正しく把握するための多様な視点」, 「総合管理を学ぶための幅広い基礎学力」等を総合的に測ることを目的としています。

今年度は、大学や社会での生活に近年急速に普及する一方で、同時に新たな社会的・倫理的課題を生み出している「人工知能 (AI)」を全体の共通テーマとしました。日本語のテキスト、英語のテキスト、そして非連続テキスト (グラフ) の読解を通して、社会の諸課題の把握・解決に必要とされる言語運用能力や数的能力、情報処理能力の基礎が身についているかを測定する意図で出題しています。

【各問題の出題意図】

問題 1 では AI のアルゴリズムバイアスと倫理的課題に関する日本語の文章を題材に、読解力や論理的思考力、数理的思考力を評価しています。問 1 と問 2 では、大学での学修の基礎となる語彙力と、文脈を正確に追う力を問うています。問 3 では、言葉によって説明されている「偽陽性率」や「正解率」といった統計学的な概念を、実際の計算手続きへと読み替える数理的な応用力を問うています。全体として、総合管理学に必要な複合的な能力を問う意図で出題しています。

問題 2 では、AI が 10 代の若者に対するバイアスを内在している可能性を指摘した英語の記事を題材としています。問 1 と問 2 では、構文や文脈を正確に把握する基礎的な英語力を評価しています。問 3 と問 4 では、テクノロジーが内包する課題の構造 (訓練データの質の問題) を読み解く力と、その解決策として「コミュニティ主導によるシステムの訓練」というアプローチが提案されていることを本文から読み取る力を問うています。全体として、英語圏において現在進行形で議論されている社会課題を直接読み解くための外国語運用能力と、複数のテキスト (問題 1 と問題 2) を関連付けて課題の本質を理解する力を問う意図があります。

問題 3 は、世界 30 カ国を対象に実施された「AI に対する人々の意識」のデータから正確に情報を読み取り、その解釈を自分の言葉で論理的に説明する力を評価する問題です。問 1 では 2 つの変数の間にある正の相関関係 (全体傾向) を言語化する力、問 2 では日本の特異性 (外れ値的な立ち位置) を客観的に評価する力、問 3 では基準線を用いて人々の AI に対する認識と人間に対する認識を比較する力を問うています。客観的なエビデンス (データ) に基づいて社会の様相を正確に把握する情報分析リテラシーを評価する意図で出題しています。